

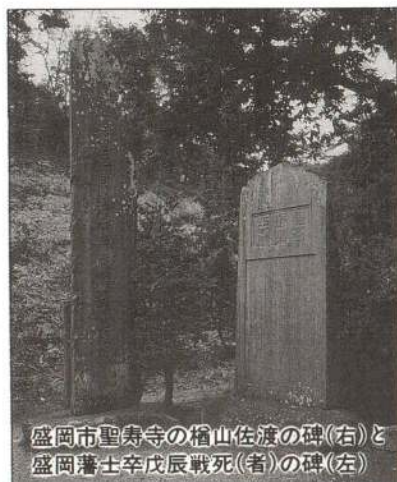
大館の歴史散歩

戊辰戦跡を
歩く (完)

南部の将 楢山佐渡

九月七日、茂木隊を主力とする軍が十二所を奪還した。十二日に大葉岱戦があったが両軍は小康状態となった。十六日、田村は雪沢口一斉攻撃を命じ、十九日には沢尻の南部軍を攻撃した。これにより秋田領内から南部軍は撤退した。二十日、袈裟掛口へ南部軍降伏の使者が現れ、連合軍は進軍を停止した。

いつの時代も戦争が終われば勝者の敗者への処罰が行われる。元治元年(一八六四)の蛤御門の変を契機として、長州藩が東北諸藩(主に会津、米沢、庄内)への復讐のため、薩摩藩と密約を交して討幕の名をかり、会津、米沢、庄内を討伐したのが奥羽



盛岡市聖壽寺の楢山佐渡の碑(右)と盛岡藩士卒戊辰戦死(者)の碑(左)

佐渡は天保二年(一八三一)五月、楢山帯刀隆寛の長子として生まれ、幼名茂太、通称五左衛門、後佐渡、隆吉と改めている。六歳で幼君の御相手として召出され、嘉永

越諸藩を巻き込んでの戊辰戦争であった。明治二年の箱館戦争の終了で戊辰戦争は終わるが、朝敵とされた諸藩の人的、経済的悲劇はこれから始まる。人的にみれば、国(藩)を憂えた多くの有能な忠君愛国の士を、反逆者、危険思想者唱者として失った。楢山佐渡もその一人である。

楢山家の祖は、南部藩二十二代政康の四男紀伊守信房とされ、孫直隆の代に領地楢山村をもつて氏としている。第三十八代藩主利済の側室烈子は叔母であり、第三十九代藩主利義、四十代藩主利剛とは従兄弟である。楢山家は代々藩家老、大番頭等の藩の重臣を務め、禄高千二百余石、藩内で高知衆三十一家と呼ばれるうちの一家である。

六年(一八五三)二十二歳の若さで家老加判列(家老心得)となり、翌年加判となる。以後、御役御免、復位を繰り返す、藩政を動かしていく一人となり、藩内に佐渡派と称する組織が誕生する。これが南部藩の保守派と称されるようになり、東次郎(東中務)の改革派(勤王派)と対立することになる。(中務を家老に推挙したのは佐渡であるが、藩財政を立て直しの方法をめぐって対立以後、袂を分かつ。)

慶応四年(一八六八)一月三日、鳥羽伏見の戦が起こった。藩内では東次郎の指導を受けて改革派が台頭し始めた。討幕、勤王いづくにくみするかで諸藩は揺れ動いた。南部藩も同様である。四月、佐渡は藩論統一のため

の情報収集のため京都にいた。この時の佐渡を評し「具眼の士ではなかった」とする人もいる。佐渡はここで一人の下級公家と会う。岩倉具視である。岩倉と会い「薩長の勤王は真の勤王にあらず」と確信したとされている。

屋敷にいた佐渡に、初めに申し渡された。処刑は、藩主利恭の願により国許での執行が許可され、佐渡は盛岡に移され報恩寺に入った。六月二十三日、戸田一心流道場での同門江釣子源吉の介錯で、三十九歳を一期として藩の責を一身に背負い逝った。墓所は菩提寺聖壽寺である。太田俊穂氏は、著書「楢山佐渡のすべて」(新人物往来社)の中で「明治維新が武士階級の崩壊を意味する以上、楢山佐渡のような完成された武士は、やはり生き永らえることができないかもしれない」と評している。

花は咲く柳はもゆる春の夜にうつなるものは武士の道

市役所史跡探訪会

私の本棚

中央図書館新着図書

『ドキュメント 正倉院』

NHK正倉院プロジェクト著

奈良正倉院に初めてテレビカメラが入った。唐・新羅そしてシルクロードを経て、遠く西アジアとの交流を示す宝物の数々。

1200年の時空を越えて、当時の様子を伝えてくれる。



◇あやしい探検隊アフリカ乱入 (椎名誠) ◇一輪 (佐伯一麦) ◇チョウの履歴書 (福田晴夫) ◇宇宙特派9日間 (秋山豊寛) ◇箸の文化史 (一色八郎) ◇香りの百花譜 (熊井明子) ◇新・ロシア人[上] (ヘドリック・スミス) ◇散華[上][下] (杉本苑子) ◇同窓会の名簿 (外山滋比古) ほか

◇ゾウとクジラがともだちになった日 (バルトマン) ◇大おとことちゅうしゃ (深見春夫) ◇ゆきがっせん (菊池日出夫) ◇いねかりやすみ (菊池日出夫) ほか

3月のテーマ関連図書コーナー

『アラブを理解するために』

親子読み聞かせ会

毎月第1金曜日 午後2時30分から

中央図書館の休館日・3月17日、21日、28日